

花の歳時記

花材料は日造協フラワーガイドシステム <http://www.jalc.or.jp/> /



スノーフレーク



プルモナリア属



シオギク

花の歳時記はホームページにも掲載中。カラーでご覧いただけます。

【スノーフレーク】

Leucojum aestivum.



和名：別名	スズランズイセン、オオマツユキソウ(大待雪草)
英名	Summer snowflake Giant snowflake
科名 属名	ヒガンバナ科レウコユム(スノーフレーク)属
花の色	白色
花の観賞時期	2月~4月上旬
葉の観賞時期(花以外の楽しみ)	2月~6月
植付け期間	10月上旬
性 状	耐寒性秋植え球根
高さ(cm)	30~40
幅(cm)	20前後
植付け範囲(cm)	10~20間隔、覆土厚8~10
日照条件	日向、明るい半日陰
土 質	選ばない
耐 性	耐寒性強、耐暑性有り(但し秋咲き品種は耐暑性弱)
用 途	花壇、鉢植え、切り花
流通形態	球根、鉢物
原 産 地	オーストリア、ハンガリー、ヨーロッパ南部
花 言 葉	美、純潔

スノーフレーク、直訳すると「雪のひとひら」。天界で生まれ地上へ舞い降りて過ごす一生をひとひらの雪の視点から描いた、あのポール・ギャリコの格調高い同名の物語をご存知でしょうか。愛らしくキリリとした控えめなたたずまいは、まさにあの名作の流れを連想させる花です。

属名はギリシア語のleukos(白)とion(スマレ)、白くてスマレのような芳香を発することに由来しています。花の少ない早春に開花し、ぱっと見の草姿、うつむき加減に咲く花の色からスノードロップと混同され易いのですが、スノードロップが白兔の耳のような花弁を持つのに対し、スノーフレークの花はアップの写真を見て分かるおリスズランのようなツリガネ型です。縁のフリルの一つ一つに緑色の斑点がついている、実にかわいらしい花です。

樹陰下にまとめて植え付けておくと、濃い緑の葉を背景に小さな白い花がいくつも浮き上がって見えて効果的です。性質は極めて強健で、球根はあまりいじられることを好まないのので3~4年くらい放植しておく方が花付きは良いようです。一つの花の開花期間は1~2週間ですが、品種によって開花の時期が多少ずれるので(L.vernumが早春咲き、L.aestivum'Gravetye Giant'は晩春咲き)上手に株を組み合わせれば長く楽しめます。ただ、寒い時期には、地表近くに腰をかがめてじっくり花を眺める根性のある人はあまりいません。逆に室内の窓からちょうど目に留まるような位置に群植しておいて、「春だよ、咲いたよ、見においで」と人を散歩に誘い出すような「春の仕掛花」としてランドスケープで扱ってはいかがでしょうか。

[株日比谷アメニス・橋本智美]

プルモナリアの仲間には日本ではまだなじみがない植物です。ヨーロッパとバルカン半島に12種を産し、ヨーロッパでは古くから好んで栽培され、園芸品種も多数作られています。葉に美しい斑が入る品種も多く、「プルモナリア」の属名は、p.officinalisの葉の斑が、病気になった肺のようにみえたことからラテン語のpulmonalis(=肺という意味)ちなんでつけられました。

早春に開花する耐寒性宿根草として最近人気が高まっています。また、半日陰を好み、常緑であるためこれからは都市緑化のアイテムとしても注目されます。

冬の寒さが厳しいと葉が痛み観賞価値が落ちますが、軽い霜があたるくらいであれば冬でも葉を楽しむことができます。

栽培は容易で、直射日光を避け、乾燥しすぎない肥沃な土壌であればすぐに大きく育ちますが、東京や大阪など日本の夏が高温、多湿になる地方ではやや栽培が難しくなります。より涼しい環境を整え、土壌の排水性を高くするなどの配慮が必要です。

プルモナリア類の花の色は多くがピンク系、ブルー系でまれに白花や紫の花を持つものがありますが、いずれもそれほどの派手さはなく、早春にひっそりと咲く小さな花の良さがあります。

花をアピールするだけでなく、日陰でしかも春早くからでも咲く花がある、葉も鑑賞できるということも合わせてアピールできる数少ないアイテムです。

まだ、国内で十分な供給体制が整っていませんが、近いうちに流通し始めることが期待されます。

[ハヶ岳ガーデン&ナーセリー・岡野]

和名：別名	肺草属
英名	lungwort
科名 属名	ムラサキ科
花の色	ローズ・白・桃・紫・青
花の観賞時期	1~4月(種類によって異なる)
葉の観賞時期(花以外の楽しみ)	3~9月(基本的には常緑)
植付け期間	10月または4月
性 状	草花
高さ(cm)	20~30
幅(cm)	30~40
植付け範囲(cm)	約30x30
日照条件	半日陰(低木樹下)
土 質	中性または微酸性
耐 性	砂土壌、壤土
用 途	高温多湿に弱い
流通形態	庭園・公園・鉢植え
原 産 地	苗・成品
花 言 葉	原産地 ヨーロッパ、バルカン半島

【プルモナリア属】

Pulmonaria L



イソギクとよく似ているが、紀伊半島から四国の沿岸に自生している、野生植物である。花の形はイソギクと同様、筒状花で花茎がイソギクに比べ大きく10~12ミリ位でイソギクの倍位ある。海岸の岩石地の隙間や崖の草地に自生し、開花期がイソギクよりやや遅く、関東地区では、11月下旬頃から12月下旬頃に咲く。四国の高知では1月でも花がみられる。

海岸の整備、開発により年々自生地のシオギクが減少しているが、最近栽培した苗の入手が可能になってきたので、海岸に似た厳しい環境での利用ができる。日本のワイルドフラワーにも目をむけて、欲しいものである。乾燥、高温、強風、潮には強い耐性をもつが、耐寒性はまだよく判らない。関東以西の寒地を除けば利用できる。イソギクと同じように排水のよい砂質土壌によく生育し肥料も殆ど必要ない。伸びすぎたら開花後に草丈の半分位刈り込むと良い。

[株サカタのタネ・内海栄一]



【シオギク】

Chrysanthemum shiwogiku



和名：別名	シオギク
英名	Chrysanthemum shiwogiku
科名 属名	キク科キク属
花の色	黄色
花の観賞時期	11月~12月
葉の観賞時期(花以外の楽しみ)	4月~12月
植付け期間	3月~6月
性 状	多年草
高さ(cm)	30~60くらい
幅(cm)	30くらい
植付け範囲(cm)	30くらい
日照条件	日当たりがよい
土 質	弱酸性
耐 性	排水の良い砂質土壌
用 途	関東から西の暖地
流通形態	屋上・花壇・沿道
原 産 地	ポット苗
花 言 葉	日本の海岸(四国から紀伊半島)